

# シリーズ 三郷学

## 〈三郷学の視点④〉 2. 変化を見る

### ③時系列でとらえる(人口構成)

我が国の総人口はピークを過ぎ、すでに減少に転じています。また、人口構成においても少子高齢化が進行しています。

本市の人口の推移を見ると、平成6年ごろから横ばいの状態からなだらかな減少傾向にありましたが、平成17年のつくばエクスプレス開業後は、微増傾向にあります。一方、世帯数も増加傾向にあり、一世帯あたりの人員は年々減少する傾向にあります。また、年齢別の人口割合では、年少人口(14歳以下)の割合が減少する一方で、老年人口(65歳以上)の割合が増加しています。

人口の増減や少子高齢化などの人口構成の変化は、市民生活や

経済活動、市の財政状況に大きな影響を与えます。

そこで三郷市では、平成32年度を目標年次とする第4次三郷市総合計画において、人口減少や少子高齢化への対策を最重要課題の一つとしています。この課題に対応するため都市基盤や身近な住環境の整備、雇用の創出、子育て、保健、医療、福祉、教育、文化等の充実に努めています。また、今年度から「にぎわい拠点準備室」を設置し、人の交流によるまちのにぎわい創出を目指しています。

